

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871100984		
法人名	株式会社はーとふるセゾン		
事業所名	はーとふるセゾン宝塚		
所在地	兵庫県宝塚市中筋5丁目17-17		
自己評価作成日	平成28年2月8日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 CS神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとして認知症の方の安心・安全の介護はもちろん、暮らしの場であることを意識し、アットホームな環境のなかで一人ひとりが笑顔で暮らして頂けるよう努めています。特に季節を感じる暮らしを大切にしています。四季折々の行事、習わし、季節の花や飾りつけ、季節の食材を使った食事、又その方の自立度に合わせた家事への参加やレクリエーションの提供、また外出支援による気分転換と日々の暮らしに張りや彩を持って過ごして頂けるよう試行錯誤しています。介護計画はご本人の言葉にならない思いや意向の理解に努め、ケアカンファレンス実施、情報の共有、連携等チームケアを高め一人一人にいてねいに関わり笑顔で接することを大切にしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしくこの町で暮らす-笑顔-」の理念に基づいてユニットごとに目標を立て、さらに標語をつくり実践へとつなげている。また、「認知症ケアの専門職として意識を高める為に」と題して、利用者のふとした言葉や動作から職員が心を動かされたことなどをミーティングで共有し、より一層、その人らしい暮らしができるように寄り添い、日々介護の向上に努めている。近くの保育園の運動会に招待され、子供たちと一緒にゲームをしたり、プレゼントをいただいたりして毎年楽しんでいる。また地域の子供たちに事業所のトイレを開放をしている。秋には昔懐かしい干し柿づくりや干し大根づくりを楽しみ、おやつや惣菜として味わった。観梅は西宮へ、花見は弁当持ちで伊丹の昆陽池へ、秋の紅葉狩りは池田の久安寺へと出かけるのも恒例行事で楽しみになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	《その人らしく この町に暮らす 笑顔》の理念は新入職員に対して入職時理念の意味を説明し共有出来る様にすると共に、年度始めの全体職員会議で確認している。理念に基づいた目標をユニットごとに立て実践につなげたり、標語を作り朝礼にて唱和している。又、新入職員に対して入職時、理念の意味を説明し共有できるようにしている。	「笑顔」の理念を具体化させるため、年度初めには全職員に標語を募集し、現在は「挨拶と笑顔で広がる明るい輪」と決め、朝礼などで唱和している。さらに対話やレクリエーションなどの目標を各ユニットで話し合って実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	初詣や地域の祭り、サロン等の行事や買い物、散歩等で地域の方々顔を合わせる機会を出来るだけ作る様に努めている。保育園との交流会を継続的に行っている。以前より地域の民生委員の方が運営推進会議に加わっている。	近隣の婦人会が行っている廃品回収に事業所として参加し、良好な関係が始まっている。保育園とは、ひな祭りに来てもらい、運動会には招待され、子供たちから手作りのお土産をもらい、一緒にゲームをし、楽しい交流をしている。	自治会や地域の方々にも理解してもらえよう婦人会を通してお付き合いの輪を広げ、事業所の行事や講習会などにも気軽に来てもらえるような関係ができることを望みます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談対応時は、相談を受けたり、質問や困っておられる事に、培った認知症の人への理解や支援の方法を活かして情報提供している。今年度は管理者が地域の認知症予防教室で講師を務め、認知症の啓発に貢献した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、活動や評価結果等の報告や活動計画について意見をいただいている。会議の内容はリーダーミーティングで話しあったり、職員に紙面で報告しサービス向上に活かしている。	隔月に開催し、家族、民生委員、市役所介護保険課、地域包括支援センター、他事業所から関係者の参加がある。活動報告や研修予定、行事内容、事故報告や入居者と職員の様子などを伝えている。	会議に欠席された家族には、毎月郵送する「はーとふる便り」に、運営推進会議の議事録を同封して、情報を共有されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員には、運営推進会議に出席してもらい、事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を伝えている。又、事故発生時には速やかに報告し対応についてアドバイスを頂くこともある。月一回の事業所部会に参加し、自治体、他事業所と連携を図るようにしている。	市の研修や会合を通して連携を深めており、困難事例や事故発生時には行政の職員に報告し、相談しながら一緒に取り組んでいくような協力関係を築いている。	
6	(5)	代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はデイサービスとの併設ということもあり、オートロックになっている。転倒・転落防止のため安全ベルト、ベットの柵を使用している方がいるが、ミーティングで見直しをしながら少しずつ解いていっている。	1階と2階のユニットはエレベーターで自由に行き来でき交流している。ベッドからの転落事故があり、家族の同意を得て手すり用センサーやベッド柵を設置した。また滑り落ち防止のため車いすに安全ベルトを付けていることがある。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることはない。更衣や入浴時には外傷等の身体異変に注意し、観察している。年に1度は社内研修で虐待防止について行うようにしている。	入職時以外にも定期的に研修を行って、虐待の事例を話し合い、日常の言動のなかでも気をつけあっている。管理者は職員の疲労やストレスがたまらないように話し合える体制づくりをしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度のパンフレットを置き情報提供が出来るようにしている。利用者27名のうち4人の方が成年後見制度を利用している。今年度新たに制度利用時、職員に対して詳しく制度について説明した。	一人暮らしの入居者が多く、成年後見制度の利用者も数名いるので、制度を利用する時にはその都度職員に教えているが、定期的な研修は取り入れていない。介護相談員の訪問は定期的に受けている	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、重要事項説明書に沿って説明し、困っておられることや質問には十分な説明をこころがけ、理解・納得していただけるようにしている。4月・8月の法改正時には文書により説明し、同意を得ている。	契約内容の説明は丁寧に行っている。事業所のできること、できないことなども説明している。重度化や看取りの質問があるが、不安や疑問のないように話し合っている。制度改正のため利用料が上がる場合も文章により説明し、同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、介護相談員の受け入れ、運営推進会議、家族会等で意見をお聞きできるようにしていると、日々のかかわりの中での利用者の要望やご家族の来訪時の会話等は運営に反映させている	年に2回の家族会や面会の際等意見を聞く機会を設けている。入居者は日常の会話や様子から判断している。家族の申し出により入浴方法をシャワー浴から一般浴に変えることに取り組んだ事例もある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見提案は月に1度開催するリーダーミーティングで話し合い、必要に応じて管理者から代表者に報告している。	ユニットミーティング、リーダーミーティングを経て出来るだけ職員からの意見を具体化できないか検討するように気を付けている。職員からの提案で昼休みの時間設定の変更がなされ反映された例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度、資格や責任に応じてキャリアアップを目指せる新たな給与制度を導入し職員のやりがいに繋げている。有給休暇を取りやすいような職員配置や退職金制度も整備し、職員が働きやすい環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時、経験に応じた研修を実施。また職員がより主体的に専門知識を身につけられるよう2ヶ月に1回、職員が自らテーマを選定し社内勉強会を企画、実施している。実践者研修についても順次受講できるよう申し込んでいる。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宝塚市介護保険事業者協会へ加入、会議のテーマや研修に応じて管理者や職員を参加させている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や入居前に、可能ならばご本人にも来ていただいたり、ご自宅等に訪問して話を聞き、少しでも不安を少なくして入居していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、アセスメントシートを利用しながら十分話を聞くようにしている。またアセスメントで知り得た情報は全職員で共有し、初期の関係づくりに生かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人の状態等をよく聞き、必要ならばグループホーム外のサービスや社会資源等の情報を提供している。多くの場合すぐの入居には応えられないので、必要に応じて介護サービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の負担にならない範囲で食事盛りつけ、シーツはぎ、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ等、その方の能力に応じ、出来ることはして頂いたり、一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りでご本人の様子を伝えている。又、ご家族来所持はご本人の様子を伝えたり、話をするようにしている。受診や外出等ご家族に協力していただいている。ご家族の思いを共有するように努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力して頂きながら地域の老人会への参加、一時帰宅、お墓参り等、積極的に支援をしている。以前から通っていた歯科や美容院へ行かれる方もある。友人等の面会には又来ていただけるようお願いしている。	本人や家族から聞き取った情報をもとにして、馴染みの美容院やお店の買い物など支援している。家族が来て食堂や喫茶店に行き、楽しんでいる人もいる。面会者も温かく迎えて、再度来てもらえるよう接している。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の気質、認知症のレベル、相性等を考えて食事席を決めている。お茶の時間には利用者同士が話せるような話題を提供したりしている。関係が深まる事もあるが、利用者同士の関係は難しいこともあるので、トラブルにならないよう職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居後の施設や病院へ面会やお見舞いに行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時々に本人や家族より生活歴や希望を常に聴いている。困難な方に関しては、日々の関わりの中で表情やふとした発言、つぶやき殻思いを汲み取るよう、職員間で話し合い取り組んでいる。	利用者のふとしたつぶやきや発言をユニットミーティングで話し合い、職員間で意向の把握に努め共有している。ふとした発言が仲間を気遣う優しい言葉だったり、感謝の気持ちだったり、新しい面を見せたりする。その人が望んでいる介護方法が見いだせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅を訪問したり、本人やご家族からお聞きし、これまでの暮らしについての情報はできるだけ多く把握し職員間で共有するようにしている。了解を得て在宅時のケアマネジャーからも情報を得ることがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる限り入居前、ご自宅での生活を尊重するようにしている。また日々の関わりの中で観察し、記録や申し送りで情報を共有し把握している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族にはアンケートや面談にて意向を聴き、職員間でカンファレンスをして介護計画を作成している。シート利用。定期的(年1回)、及び変化に応じて介護計画を作成している。	1年に1回、本人や家族、必要に応じて医療関係者からも意見を聞き、職員間で話し合い介護計画を立てる。また大きな変化がみられるときは、本人、家族の意向を聞き、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録シートや連絡帳・申し送り、必要に応じて別途記録シートを作成、介護計画を実践し職員間で情報を共有して、定期的及び変化に応じて開催するカンファレンスでの介護計画見直しに活かしている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設デイサービス利用(音楽療法、歌の会等)や訪問マッサージ、家族が対応困難な場合の通院介助、衣類や日用品の購入等要望はできるだけ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催される催しへの参加、個別の新聞配達、美容院や商店、喫茶店、食堂の利用、又、ボランティアグループや個人ボランティアを受け入れ豊かな暮らしを楽しめるようにしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を図り十分な医療が受けられている。脳神経外科や眼科等、専門医への通院については家族の付添を基本としているが、緊急性や入居者の身体状況を考慮し、できる限り柔軟に支援できるよう努めている。	事業所の協力医をかかりつけ医としている利用者が多く、2名のかかりつけ医が1か月に2回往診に来る。歯科や眼科などの受診は家族状況によっては、事業所の車でお送りしたり、受診票を前もって病院へ出したりといった受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職として看護師は常駐していないが准看護師資格の職員がいる。看護師に相談したり直接医師に連絡し適切な対応ができるよう支援している。日中は併設デイサービスの看護師の応援も得られる。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、かかりつけ医の診療情報と介護情報を書面と口頭で情報提供している。入院中は面会にて様子を聞いたり情報交換をしている、又退院に向けてカンファレンスを開催することもある。提携病院で開催される交流会に参加したり、情報誌を送って頂いたり関係作りを行っている。	入院した場合はできるだけ見舞いに行き、家族や看護師らと情報交換をしている。高齢の利用者が入院した時、病院の食事が合わず、早めに退院できるよう医師や栄養士から栄養指導を受け、ホームでの食事を食べるようになり回復に至った例がある。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対して終末期については入居時にGHでできることとできないことを説明し、その方の置かれている状況や身体的な状態に応じて入院先や特養等の設備や医療体制面の整った他の介護施設への住み替えを支援している。状況によっては看取りが可能となる場合のあることも併せて伝えている。	重度化や終末期の指針は文章化していないが、入居時に重度化や終末期については本人や家族の意向を聞き、状況を医師と相談しながら話し合っていく方針を伝えている。	重度化や終末期の方針を文章化し、重要事項や契約書に記載し、方針を共有していくことを望みます。

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については新社員研修で学んでいる。救急救命については不定期ながらも実施しているが、救急救命実践力の不安も多い。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署と共に昼や夜を想定して消火・通報・避難訓練を行うと共に随時、火災報知機の適切な使用方法についても学んでいる。地域との協力体制について具体的には今のところ築けていない。	年に2回消防署と連絡を取り、消火、避難、通報の訓練をしている。持ち出し書類も作成している。食料などの備蓄品の確認がされていない。	運営推進会議で近隣の住民や消防署や地域の警察署への協力を呼びかけるようにされてははいかがでしょうか。災害用の備蓄をし、保存管理をしっかりとるように担当職員を決められるのも一方法ではないでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮、人格を尊重し、一人ひとりの理解力を考慮しての言葉かけや対応をしている。トイレの声かけや食事時のエプロン着用など気をつけている。家庭的な雰囲気は大切にしながらも馴れ合いの言葉にならないよう気をつけている。	ミーティングで利用者への声掛けや言葉使いなど、対応の仕方を研修している。食べこぼしのある方の食事時のエプロンも、本人や家族の了解を得て、汚れる膝だけなど最小限にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でしたいこと、行きたい所や食べたいものなど聞くようにしている。思いや希望を表出できる方ばかりではないので、一人ひとりの能力に応じて、答えやすいような声かけをして、表情をよみとる等して、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、心身の状態に合わせての食事時間や居室配膳等できる限り本人の意向やペースを大切にしよう努力しているが、外出や入浴等、入居者全ての希望を実現させることについては職員の配置上限を感じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色やデザインはほぼ把握している。その日着る服を自分で服を選んで頂いたり、カットやヘアカラーに美容院へ行かれる方、お化粧を好む方にはできるように支援している。一緒に服を買いに行く事もある。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは調理担当職員がしているが定期的に入居者と共同しておやつ作りや食事作りをしている。また日常生活においても野菜の下ごしらえや味噌汁づくり、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いもできる方にはして頂いている。	行事に合わせて、節分にはみんなで巻きずしを作り、お彼岸にはおはぎを作った。秋には干し柿づくり、冬には干し大根づくりをし、みそづくりの計画もある。みんなで好み焼きや鍋ものをし、おやつのパンケーキ作りも楽しんだ。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は咀嚼能力に応じて、食べ易い形状にしたり、一人ひとりに合った量にし、様子を見ながら声かけをしたり介助したりしている。水分はお茶の時間を設けて好みの飲料を提供し、好みに応じて対応している。毎日の食事は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけでできる方や用具を手渡す方、介助の必要な方、うがいが難しく口腔ケアシートを使う方等本人の能力やその方の状態や必要に応じて1日2~3回実施している。義歯は定期的に洗浄液で洗浄している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用と、申し送り等で排泄時間や排泄のサインを把握して声かけやトイレ誘導をし、できるだけトイレで排泄できるようにしている。	日中は布パンツをはいている利用者が多くトイレで排泄している。夜も心配な利用者は紙パンツを使用しているがトイレが各部屋に設置してあるのでトイレでの排泄を支援している利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談し下剤も使用するが、朝はバナナとヨーグルト、又野菜の多い食事を摂って頂いたり、個々の排便状況に合わせて水分補給、野菜ジュースや冷たい牛乳の提供、散歩や歩行練習等の運動により自然排便を促している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員体制により入浴時間帯、入浴日は個々の希望に添ってできないが、体調や希望により変更し、柔軟に対応している。入浴中は個々のペースでゆっくり快適に入浴していただけるようにしている。	利用者の希望に沿って週2~3回は入浴している。話好きな方は湯船の傍らで相手し、一人でゆっくり入浴を楽しむ方はそっと見守る。5月はしょうぶ湯、また近所の温泉へ出かけ、アイスクリームをなめながら足湯にかかるのも楽しみの一つになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や体力に応じて居室で休んで頂いている。夜間は安眠できるよう寝具、室温、明るさ等に配慮し安眠できるようにしている。		



自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての利用者の薬を完全に把握することは難しいので、説明書をファイリングしいつでも確認できるようにしている。薬の変更や臨時薬は申し送りで情報を共有している。服薬介助は記録し確実にやっている。薬の変更時は様子観察を行い、主治医に報告している。薬局とも連携を図り情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて出来ること、得意なことで役割を担って頂いている、楽しみごとは歌の会や四季折々の行事等全体で行なうものや、読書、散歩、お茶、百人一首等独自の楽しみをケアプランに組んでいる。個別の菓子や副菜を常備している方もある		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそってはできないが、観梅、花見、紅葉狩り等の季節の行事や外食、喫茶、買い物や散歩などできるだけ外出する機会をつくっている。又、家族とお墓参りや、食事、旅行に出かけられる方もある。	外出スケジュール表を作り、少しでも戸外の空気に触れる機会を増やそうと努力している。もうすぐ甲東園梅林へ出かける予定である。近くのスーパーへ買い物に行ったり、コーヒー店へ出かけたたりして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は財布を持ち、買い物の時は自分で支払いをして頂いている。一緒に買い物に出かけ、お金の保管や支払いをお願いする場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたたり、手紙を出したり、年賀状を書いたりして頂いている。家族の了承の下、個人の携帯電話を所持し好きな時に連絡を取る方もある。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広さや構造上の制限があるので、温度調節や換気に気をつけ生活環境を整え、季節の花を飾ったり置物、飾り付け、窓から見える花木やプランターの花など季節を感じ居心地よく過ごして頂け様に工夫している。リビングの壁飾りを月毎に変えているユニットもある	玄関にはお雛様の段飾りがあり、春を待つようすがうかがえる。リビングの真ん中にテーブルを置き、横にオープンキッチンもあり、食事作りの様子も見える。また窓の向こうに畑も見え季節の移ろいも感じられる。壁には利用者の顔写真や習字の作品が貼ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、廊下の一角に椅子や長椅子を設置、また玄関スペースに椅子やソファを置いたりし、共用スペースにおいても独りになったり、通りすがりに談笑することができる。また食卓で気の合った方同士で談笑できるよう席の配置には気を配っている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームはーとふるセゾン宝塚

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時できるだけ馴染みの物(タンス・机・仏壇・飾り物)を持ってきていただくようにしている。又、それぞれの方毎に絵や手芸などのご本人の作品、家族の写真を飾ったりしている。テレビや冷蔵庫を置いている方もある。担当職員が本人・家族の意向を大切にし理由のある居室づくりを心掛けている。	部屋の入口には事業所で作った住所、名前が貼ってあり、花のリースなどで自分の部屋をわかりやすくしている。 部屋には自分で書いた鶴の絵を額に入れて飾ったり、家で使っていた書棚、御仏壇を持ってきている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ・風呂等分かり易いように、字を大きくしたり、個別の表示をしたり、言葉を選んで表示するなど工夫している。廊下には不必要なものを置かないようにしている。タンスには貼りどこに何が入っているが分かり易いようにラベルを貼っている方もある。お掃除が好きな方に対して自分で掃除ができる様に支援している。		